二月一日
常磐毎日新聞
日刊
定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
一日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六二〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

如來の救濟

眞織　雲山

（一）

極樂に迎へらるといふのは、救ひとらることである救はるゝといふのは五十年後に死んでからの話であつて、現在の自分に何の交渉はない。また百年後の自分といふ者のあるべき筈はなく『百年後の自分』といふものがあるやうに考へられるのは想像すなはち概念、概念すなはち名前であつて、現在の一秒時の自己以外に救はるべき當体はない。

阿彌陀佛は、その當体を必ず救はねば措かぬといふ即ち必ず滅度の願を成就（完成）あそばされてゐるのであるから、善人へも、惡人へも、信者不信者も、實は皆な一樣救はれてゐる筈であるが、智慧くらきゆゑに己れの救はれてゐることが分らぬのである。

智慧がなくて分らねば信ずるの外ないことであるが凡人の悲しさには信ずることすら出來ない。現に救はれてゐるのではありながら分らず、信じ得られないものに取つては、その當人の現實の心もちとしては、救はれてゐない狀態となつてゐるゆゑ、結局、信じないものは救はれない話になるの外ないのである。

聖道門は、法相眞如に體達して佛の智慧（宇宙の實相）を知れよといふのである。淨土門では、己れの智慧暗くして知ることが出來ぬものは、信ぜよと敎へるのであるが、知りもせず信ずることも出來ぬものは御當人は現に救はれてゐながらも事實は救はれてゐない結果となつてゐるより外はない。母親はシッカと我が子を抱き締めて救ふてゐるたりがあるやうであるも歸するところは一つである。

ノート

醬油の汚點は鹽をもみ込みしめらせて暫く置くとよれます

二明日の献立二

【朝】みそ汁—ほうれん草
【晝】魚あんかけ—鹽鮭くずあんかけ　おろし生姜
【晩】椀—かしは　ねかぶ　推茸　胡椒

のであるが、ギヤア〳〵と泣き叫んでゐる赤ン坊は膝の下に抱かれてゐながらも事實は救はれてゐない果體（結果の體）を有してゐるのである。

私たちは認識以外に何一つの世界はない、唯心論と極樂說とには一見大きな隔

常磐歌壇

今藤　松次

指先きの小イサキ負傷に氣弱にも腦貧血に青くなりけり

傳染病いたせし家かも部屋内は藥の臭ひ鼻つきにけり

腸チブス出せし家や外出をさけつゝ語る家の人らはも

桐の葉のまばらなりける畑道をあふぎつ見れば月ぞさえけり

斯界の權威!!!
大塚の靴
學生靴　自生編上靴　六圓
女學生半靴　五圓
紳士靴弊店自慢の流行新形
平田町
大塚製靴部
電話七七番

內科・小兒科・花柳病科
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

吸入用酸素
純度99%
度量衡器
モノサシ　マス　ハカリ
体溫器　寒暖計
◎秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
開內藥局
電話四〇番

耳鼻咽喉科專門
入院應需
平町田町七〇番地
山內醫院
醫學士　山內亨吉
電話六九一

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

お醬油は……ヤマフル
醬油味噌　たひら正宗　鰹節食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町【電話營業部一〇釀造工場二七】
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

貸切の●●
御用命は！
獅子吼（四四九）ノ勢デ
貞先ニ……（マツサキ）
三九二タクシーへ!!!

◎診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず
平町
磐城共濟會
電話六四一番

內科
小兒科　醫學博士　石山謙郎
外科　醫局員　佐久間粹
耳鼻咽喉科　醫學博士　桂重次
皮膚科　醫學士　有馬勇二郎
產婦人科　醫學士　五十嵐雄二
X光線科　醫局員　佐久間粹二
衛生試驗所　醫學博士　石山謙郎
藥局（藥劑士）　技師　工藤慶造
　　醫學博士　石山謙郎
　　技師　高後利雄
　　藥劑士　吉本孝平

磐城共濟病院案內
院長　醫學博士　石山謙郎
自宅（電話一二四番）

平庶民金庫の決算
各種數字增加
業務の盛大を示す
組合員の配當は年四分

既報信用組合平庶民金庫は昨日午後一時より總代を招集して決算總會を開いたが剰餘金は總益金の三萬三千五百廿七圓四十八錢より總損金二萬六千三百十四錢を差引いた七千二百廿七圓卅四錢にて此の處分を左記の如く決定

△千九百五十九圓卅錢（剰餘金の四の一以上）準備金△三千五百六十一圓（出資拂込濟の年四分）配當金△八百卅七圓四錢（中小工農低利資金利鞘預金）別途積立金△四百圓　役職員退職給與金△四百七十圓　役員賞與金

尚ほ任期滿了に依る監事改選の結果は坂本隆藏、鈴木重助、藤田榮助の三氏當選信用評定員は田町の高野卯之吉氏死亡に依り金子重次氏新任せる外何れも再選と決定した因に事業報告に依れば

組合員數は新加入百五十名、脱退六十四名にて前年より差引八十六名增加し現在八百六十六名あり

出資口數は六百卅四口增加し二百八十八口の脱退にて差引三百六十六に增加し現在四千六百四十五口

出資拂込は前年度七萬五千五百十九圓四十八錢であつたのが七年度に於て一萬三千五百三圓四十四錢の增加を示し現在は八萬九千二十二圓九十二錢に達した次に

貯金總額は各種を合併し前年度は十三萬七千四百七十九圓八十四錢であつたが受入金九十七萬八千三百五十四圓九十五錢、拂戻金九十五萬三千七百七十三圓四十一錢にて現在十六萬一千九百六十一圓卅八錢また

貸出金は前年度件數一千二百五十四件、金額卅萬五千五百廿八圓卅一錢であつたが七年度中貸付件數は一千八百八十件、金額五十二萬五千四百卅四圓十四錢、償還は件數二千百卅七件、金額五十三萬三千七百十圓五十錢、差引七年度末貸付件數は九百九十七件、金額廿九萬七千二百五十一圓九十五錢が各種階級を均霑して居る譯であるといふ

勝ち緣起を
擔ふ意氣込みで
早くも戰鬪準備
四倉の恒例火打合

石城郡四倉町では恒例の火打合を舊正月十二日より三日間同町海岸に催されるが本年のインフレ景氣を見越して居る各漁業家連は此際勝ち緣起を擔はねばならぬと力コブを入れ新町中町の兩軍早くも立木を山と積んで戰鬪準備を開始したから例年にない盛觀を極めるものと期待されて居る

水道計劃
實現か
小名濱に

石城郡小名濱町では既記の如く將來の大商港を目論見上水道の設置計劃あるも財政難から未だ具体的に至らないが小野新町長は豫てより設置實現に意を注ぎ去る廿九日新任披露會の席上に

再び……
投書者に告ぐ

昨日の凱旋兵歡迎會に關する投書者から『俺れは男だ女だと思つて居る丈君は眼が暗い』といふ樣な意味の無名の投書が更らに舞ひ込んだ。成程書いたのは男であらうが、夫れはたゞ代書の役目、いはばロボットに過ぎず書かした本尊が女である事實に間違ひはない、眞に男が書いたんなら今更ら『俺れは男だ』等と申譯的な投書を寄せる必要が何處にある、また夫れ程國家の非常時に際して痛憤禁せざるものがあるなれば男らしく正々堂々本名を名乘つて所懷を述ぶべきで、變名や無名の陰に隱れて居る卑怯な態度は一體どうゆふ譯だ。貴女（貴君とは申さず）の今度の投書には『理屈と膏藥は張りやうで付く』とあるが、効きめのない理屈や膏藥では張つても駄目だ本名を名乘つて出直せ、出直せ　（川崎生）

ても水道設置の急を述べた程であるから同町の水道計劃は愈々實現の可能性が確實視せられるに至つた

郷土讀本
改訂協議

平町各小學校郷土讀本改訂委員會は本日午後一時より第三小學校に於て開かれ種々打合せを行つた

平各小學校の
就職希望兒童

平町各小學校にては來る三月卒業する兒童に對し此程就職希望の有無を調査したが結果は左の如くであると

（第一）洋服裁縫見習一
（第二）看護婦見習二　局交換手一一　店員三　髮結見習二　女工一（第三）指物大工二　鐵工場職工二　ペンキ職工　店員　理髮師　女中　ミシン見習各一

平常も
卷ゲートル

平商業學校にては昨日職員會を開いた結果新學年より從來敎練の時のみ使用した卷ゲートルを平常も使用せしむる事に決定したと

平商新學年から

昨年よりも增加
平町の通學希望兒童

平町各小學校にては中等學校入學試驗も間近になつたので毎日放課後二時間宛係訓導指導の下に下準備をして居るが各學校の志望者は左の如くいづれも昨年より增加して居ると

△第一　中學九三　商業五六　其他四計一五三名
△第二　高女一〇三　女子師範一　其他一計一〇五名
第三　中學七　商業五　高女一四　計二六名

平町人事

回出生
△材木町一一　金正裕氏二女榮子
△長橋町三六　中村藤一氏長女フジヱ
△七軒町四〇　甲高榮一氏長男喜一

回婚姻
△長橋町三六　中村藤一氏（二二）上小川村字高崎九六渡邊ユキコ（二〇）

回死亡
△大工町一三　早川正次（二ッ）
△搔槌小路二五　當時茨城縣久慈郡大子町六九九穗積市太郎（四四）

謹告

今朝の失火に際しては早速御馳付け下され誠に有難く御禮申上げ候幸ひ大事に至らず各病室共異狀なく亦各科の診療にも差支へなく平常通り從事致し候間御安心下され度乍略儀以紙上御禮申し上げ候

二月一日

磐城共濟病院

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

一册の代金で
御希望通りな
五册の雜誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
（申込次第規則書進呈）

殺人強盗犯は逃走後平町に潜伏

織田材木店にも雇はれた

昨報—殺人強盗犯人として平署に逮捕された新潟縣北蒲原郡小幡村字浦野强窃盗四犯長谷川勘次（四五）は逮捕と

同時に 平署より新潟縣警察部に發した通牒に依つて今朝同縣警察部刑事課の小林松治、監物忠吾の兩刑事が平署に出張取調の上今夕平驛發列車にて護送する筈であるが犯人長谷川は先月上旬新潟刑務所を出獄後新潟縣北蒲原郡南濱村字見濱雜貨商金田タツ（五四）方に押入りタツ及同人私生兒花枝（一五）の兩名を

日本刀 で慘殺し平町新川町高橋カネ方に潜伏中織田材木店に雇はれ數日前より水戸村成澤鑛泉に滞在し木挽をして居たので豫てより新潟縣の依頼に依つて捜査中の平署の刑事一行に逮捕されたものである

収容者續々

小名濱築港事件が更らに擴大の模様

既報小名濱築港事務所長高等官三等樗木篤夫の收賄事件に關し同人及び贈賄側の小名濱町久保田眞、高木武士が收監され益々擴大の徴あつたが昨日更られ江名町鈴木省三、湯本町長岡義守の兩名も贈賄者として收監された

共濟病院危く火事

幸ひ消し止む

今朝八時半頃平町南町共濟病院内下科診察室の消毒用ガス器より發火して階上病室に燃え拔けんとしたのを發見病院及び附近の者が駈付け大事に至らず消止めた

磐中の寒稽古納會

磐城中學校柔劍道部寒稽古納會は本日午前九時より橋本校長の開會の辭に始まり皆勤者表彰を行ひ直ちに各學級對抗試合を催したが三時閉會し臨席者は　平町長警察署長　刑務署長　縣會議員　各學校長　消防組頭帝國在郷軍人聯合分會長　在郷軍人平分會長　同窓會々長　幹事　評議員其他知

坑内で炭車轉覆

二名死傷す

操車中の椿事

石城郡内郷村磐城炭礦高坂坑内で昨日午前十時頃同村字御殿山一號居住運搬夫早川政一（三）が同僚の佐藤忠義（三五）と操車中炭車が脫線轉覆し早川は炭車と炭層に挾まれ頭蓋骨及び背骨を折つて慘死し同僚の佐藤は投げ出された際骨盤を折つて全治四週間の重傷を負ふた

スリの親分拘留

公判後直ちに

石城郡内郷村大字宮字代二番地佐川好男（三一）は本日午前十時より平區裁判所に於て竹内判事係り上田檢事及び渡邊書記立會の下に公判開廷され事實訊問の上贓物收受罪として拘留されたが被告人は昨年十一月下旬同村大字綴字江尻十一番地西村武（二四）及び同村字金坂十四番地大平四郎（一七）の兩名を手先に使ひ共謀の上同村金坂地内に於て興行見物中の田村郡二瀬村清松三女佐久間トクコの懷中より現金五圓餘在中の蟇口一ケをスリ取つた外茨城水戸各方面に於て同樣手段にて合計百餘圓の窃盗を働いたものであると

手近な處から……

家事手傳ひ奬勵

平第二小學校が力を注ぐ

平第二小學校にては昨年六月以來尋常科第三學年以上の兒童に對し實事手傳を奬勵し低學年生には毎日カレンダーはぎ、庭掃除、高學年生には夜具の仕末、家事の手傳ひ、弟妹の世話、食事の後片付等手近かな仕事を實行せしめ一般家庭よりも喜ばれて居るので今後も尙一層力を注ぎ近日中一般家庭と聯絡をとる爲め家庭作業に關する印刷物を配付すると

警備委員協議

平町警備費委員協議會は來る三日午前十時より町役場會議室にて開かれ委員七名が參集協議する事になつた

磐炭消防出初

石城郡内郷村磐城炭礦消防組では來る五日午前七時より出初式を擧行式後優良組員の表彰を行ふ筈

川部青訓査閲

石城郡川部村青年訓練所の査閲は來る三日午前七時より同村小學校にて行はれるが査閲官は福島聯隊區司令部中村少佐であると

入山坑夫壓死

石城郡湯本町入山炭礦第四坑内で作業中の山形縣北村山郡中村生れ坑夫西村長治郎（三九）は卅一日午後四時半頃落盤の爲めに壓死した

匡救工事で勞働者重傷

石城郡湯本町字榮田居住生田目武雄（二六）は去る卅日渡邊村大字上釜戸字千峯地内匡救道路工事場で盛土工事の作業中山上より落下して來た土魂の下敷となり左足に内治三週間の重傷を受けた

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 獨唱 獨唱山内澄子 伴奏みかげ童謠舞踊學團音樂部
▼後七、三〇 講演 滿鐵總裁文學博士伯爵林博太郎
▼後八、〇〇 ラヂオドラマ「人か鬼か」井上正夫外
▼後八、五五 連續浪花節「河内山第一席」木村重友
▼後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前九、一〇 料理献立「ブーデングサクソン」小林忠雄
▼前一〇、三〇 家庭講座「スポーツ外病と豫防と手當」一醫學博士蔭山宋
▼後〇、〇五 三曲「茶音頭 新高砂」加藤柔子外
▼後二、〇〇 家庭大學講座「哲學とは何か」二、東大講師大島正德
▼後五、三五 受驗講座 代數 松村定次郎
▼後六、〇〇 子供の時間 少年講談「長短槍試合」野村無名庵
▼後七、三〇 講演「建築の風貌」仙臺高工教授小倉强
▼後八、〇〇 萬歳 太夫管原松治 才藏木村吉松
▼後八、三〇 連續浪花節「河内山宗俊第二席」木村重友
▼後九、三一 滿洲より

明日のラヂオ 二日

仙台放送局

天氣豫報

今晩も明日も北西の風天氣良し

職業紹介所報告

回 人を求める方

△寫眞師見習 十六才 高卒 仕着小遣（平町某）
△雜夫 二十五才以下 尋卒 月十圓以下（豊間村某）
△家事婦 四十才迄 月五圓 委細面談（赤井村某炭礦）
△女中 五十才以下 月五圓外面談（神谷村某）

回 職を求める方

△小使 三十三才 尋五修 給料面談（平町某）
△自動車運轉手 二十七才 高卒 給料面談（平町某）
△女中 五十一才 尋卒 給料面談（平町某）
△雜夫 六十才 高卒 給料面談（平町某）

食事と喫茶
平一 カフエー
電話四六番

新來客劍吞

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百五十六席　千葉周作

一杯喰つたおせい

千住で居酒屋を出してゐる繁藏の女房おせい、正月七日の夜の事店には大分客も來てゐる、折しも表から駈込んで來た馬藤

藤『姐さん大變だ〳〵』

せい『なんだねさう〳〵しいお客さまがゐるぢやアないか』

藤『お客さまのゐることは知つてゐる、それでも大變な事が出來たから大變だと云ふんだ』

せい『その大變とはどんなこと』

藤『どんな事と云はれてはこんなものだと云つて形を見せることは出來ねえ只の大變ではねえこれはあつらへの大變だ』

これを聞くと店にゐた客はドッと笑つた

せい『なんだねえこの人は冗談ばかり云つておまへねとぼけものだねえ』

藤『嘘や冗談にこんなことは云へねえまつたく大變が出來たそれはの、兄イと二人で荒川の堤まで行くとどうしたことか兄イが堤下へころがり落ちて怪我をしたんだもう動けねえウン〳〵うなつてゐる、早く行つて見てくんなあの儘死んでは大變だ』

せい『それは成る程大變だね、それではすぐに一緒に行くよ』

藤『醫者さまを頼むにしても先に立つは金だ、いくらでも姐さん持つて行つた方がよいぜそれに兄さんも金は持つてゐるであらうが多い方がよいや早く〳〵』

せい『待つておくれ』

と帶をしめ直したおせい店たゐる客に向ひ

せい『お客さまお聞きなさる通り良人が怪我をいたしましたから是から行つて樣子を見て參ります』

○『それはお內儀さん心配だらう何にしろ堤は崩れて居るからな、大かた石にでもつまづいて、堤の下へ落ちたものだらう、早く行つて見て遣るがよい』

せい『おてうや跡を頼むよ……』

と女中に留守を任せ提灯をつけて馬藤と二人で出たせい『何處か怪我をしたの……』

藤『それが暗い所へ落ちたことだから分らねえ足が痛む頭が痛む腰が痛むなどゝ云つてウン〳〵うなつてゐる我慢强い兄イがうなるやうでは苦しいに相違ねえ藥を呑ませやうと思つて懷中をさぐつたが兄イは藥を持つてゐねえ、俺も持つてゐねえ腹掛の隱しに七色唐辛子があつたが金魚でねえから唐辛子を呑ましたとて効くまいと思つたが辛いから氣付にはなるだらうと口のまはりになすりつけたが』

せい『困つた事が出來たねどうして又堤から落ちたらう』

藤『崩れてゐたんだな兄イも踏止まることが出來ずズル〳〵バッタリと落ちたんだオ、寒い〳〵今夜は大層冷るなア』

話しながら荒川堤西新井の方にチラ〳〵灯が見える

それは狐火の樣に思はれます

せい『何處に居るの』

藤『此方だ〳〵もう少し先だ』

せい『良人は動けないの』

藤『ウン身體を動かすことが出來ねえ痛いと見えるなア、こればかりは代つて遣ることが出來ねえ、此處だ〳〵』

せい『オヤをかしいね此處はおまへ小田の渡し小屋だよ』

藤『それだから不思議だ堤から落ちて渡小屋へ飛込んだ』

せい『妙だね堤と渡し小屋とは大分離れてゐるぢやアないか』

藤『それがねコロ〳〵ところがつた勢ひに飛込んでしまつたオ、兄イ姐さんを伴れて來たぜしつかりしねえ……』

ガタ〳〵〳〵と戸を開けた其時おせいが

せい『友藏さんしつかりおいよ』

と云ひながら提灯をつき出してその光で見ると繩を掛けられて土間の柱にくゝしつけられたは友藏その前にゐる頰冠りをした男おせいはびつくりしてアレと聲を揚げ逃げやうとするを馬藤が後からドンと突いたヒヨロ〳〵とよろめき中に入る同時に馬藤も飛び込んでピタリと戸をしめた

せい『お前さん方は何をするんだね』

と云つた時に頰冠りをしてゐた彼の男が

○『姐さん久しぶりで會ひますね、おめえさんは俺を見忘れたかね』

せい『オヤまておまへは清瀧の』

佐『佐吉でこざいますおまへさんと友藏に云ふ事があつてだまして此處まで伴れ出した、ヤイ女騷ぐなおとなしくしてゐろ……』

梅毒　淋病

淋病　皮膚病　婦人病
十二指腸虫病
專門

松村胃腸病科醫院
平町南町　電話一七〇

節分豆まき會
一日時　二月三日（舊歷正月九日午後一時）
一場所　縣社子鍬倉神社
一歲男　各町の世話人又は事務所（平町紺屋町柳下方）迄に申込まれたし
會費甘錢（福豆及び神札呈上）
主催　福和內會

イヤ！　君！
いゝ冬服を求めたね
斷然三三年型だよ
いやコレカネ！
例の……「リレ」
正札堂さ

平四丁目停車場通電四三六

外科花柳病專門
本村外科醫院
■入院自炊の便あり
平町五丁目橋際電話三〇九番

市原醫院
平町田町（電話一一四番）
內科小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科梅毒、淋病　市原三三男
■入院隨時